

教育研究業績書

2010

11月5日現在

氏名 井上松永 (ウイマラ)

4 枚中 1 枚目

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表の 年月	発行所、発表 雑誌又は発表 学会等の名称	概 要	編者・著 者名(共 著の場合の み記入)	該当 頁数
(著書) 『呼吸による気づきの教 え：パーリ経典“アーナー パーナサティ・スッタ詳 解』	単著	2006年2月 (平成18年2月)	佼成出版社	ヴィパッサナー瞑想の根本経典を現代的 に解説したもの。		230
『人生で大切な五つの仕 事：スピリチュアルケアと 仏教の未来』	単著	2006年10月 (平成18年10月)	春秋社	スピリチュアルケアとは何かを事例と理 論から詳解し、仏教を以下に現代社会に 生かしてゆけるかを考察したパイオニア 的著作		200
『看護と生老病死』	単著	2010年8月 (平成22年8月)	三輪書店	仏教心理学の視点から、看護臨床におけ る困難な事例を分析したもの。第1部で は瞑想を中心として現代仏教心理学のあ り方を解説している。		237
『呼吸の事典』、『呼吸を 感じるエクササイズ』	共著	2006年1月 (平成18年1月)	朝倉書店	呼吸を自覚するためのエクササイズを、 コミュニケーション論を含めて紹介。	有田秀徳	12
『高野山大学選書第3巻』 『北米の仏教ホスピスプロ ジェクト』	共著	2006年9月 (平成18年9月)	『高野山大学 選書第3巻』、 小学館スク ウェア	サンフランシスコ禅センターが開発し運 営しているホスピス・ボランティア教育 プロジェクトを取材し紹介したもの。	谷川泰教	13
『スピリチュアリティとは 何か?』、『スピリチュ アルケア基礎論』	共著	2007年3月 (平成19年3月)	ナカニシヤ書 店	精神分析と仏教瞑想を基盤としたスピリ チュアルケアの理論的構築を試みたもの	尾崎真奈 美、奥健 夫	24
『瞑想脳を開く』	共著	2007年7月 (平成19年7月)	佼成出版社	セロトニン研究の権威である有田秀徳教 授とのEBM共同研究の報告書。瞑想がい かに心のつながりと健康をもたらすかを 科学的に探求したもの。	有田秀徳	170
『セロトニントレーニン グ』	共著	2008年8月 (平成20年8月)	Mcpres	セロトニン神経を活性化させるための呼 吸法と瞑想法の紹介	有田秀徳 井上ウイマラ 鈴木光弥 きむらみか 中谷康司 関山タマ ミ 宇新 軍 豊川 治樹 菊 本るり子 原久美子 REINA	11
『スピリチュアルケアへの ガイド』	共著	2009年4月 (平成21年4月)	青海社	スピリチュアルケアに関する実践的なガ イドブック。キリスト教をベースとして スピリチュアルケアを開拓する窪寺俊之 氏との共著。	窪寺俊之	67
『日本人と「死の準備」』	共著	2009年5月 (平成21年5月)	角川SSC新書	仏教瞑想をベースとして、自らの市にど のように備えるかについての講演記録。	山折哲雄 柴田久美 子秋田光 彦 中村 仁一 藤 腹明子 カール・ ベッカー	12

4 枚中 2 枚目

『ケア従事者のための死生 学』	共著	2010年9月 (平成22年9月)	ヌーヴェルヒ ロカワ	『互いにケアし合う「悲嘆」という仕 事』というタイトルで、悲嘆について心 理学的な臨床理論を紹介しながら解説し た。	清水哲郎 島面進 編集	13
『ブッダのサイコセラ ピー』	単著	2009年5月 (平成21年5月)	春秋社	精神科医であり仏教瞑想かでもあるM.エ プスタインによる仏教瞑想と心理療法を 橋渡しする革新的な著作の翻訳		331

『宗教と終末期医療』	共著	2009年12月 (平成21年12月)	佼成出版社	第2章において、終末期医療におけるスピリチュアルケアの可能性について、仏教と子育てにおける母子関係を切り口に論じた。第5章のパネルディスカッションでも発言。	中央学術研究所編集 林茂一郎 井上ウィマラ 藤腹明子 田中雅博	25
『モノ学の冒険』	共著	2009年12月 (平成21年12月)	創元社	モノ学研究会の鎌田東二会長が編集者として、13人の著者たちがさまざまな角度からモノ学にアプローチした。第1部において「移行対象：内と外をつなぐモノ」を担当。対象関係論的視点から宗教アイコンや呼吸瞑想について分析した。	鎌田東二 松生歩 河合俊雄 井上ウィマラ 島嶺進 黒住真 切通理作 大西宏志 岡田美智 男上林壮一郎 渡邊淳司 藤井秀雪 近藤高弘	19
(学術論文)						
『仏教からスピリチュアルケアへ』	単著	2006年5月 (平成18年5月)	『トランスパーソナル学研究第8号』、日本トランスパーソナル学	仏教瞑想と心理療法をベースにしたスピリチュアルケアの可能性を論じたもの。		10
"From Buddhism to Spiritual Care"	単著	2006年5月 (平成18年5月)	Kyoto 2006 Conference Self and no-self in Psychotherapy and Buddhism	仏教瞑想の洞察と慈悲の視点をベースにしてスピリチュアルケアを構築する試みを論じたもの。		6
『移行対象：内と外をつなぐモノ』	単著	2007年3月 (平成19年3月)	『モノ学感覚価値研究第1号』、モノ学感覚価値研究会	ウィニコットの移行対象についての概念をベースにして仏教瞑想で呼吸を見つめることの意味を論じたもの。		10
『キューブラー・ロスの人生から学ぶスピリチュアリティのあり方』	単著	2008年1月 (平成20年1月)	『緩和ケア』、青海社	スピリチュアリティのあり方について、キューブラー・ロスの人生と彼女が死の受容の5段階理論を見いだしていった軌跡を辿りながら考察した。		4
『五蘊と無我洞察における asmi の位相』	単著	2008年2月 (平成20年2月)	『高野山大学論叢』	パーリ經典の相応部『長老相応』に納められた10経を対象として、そこ使われている無我洞察に関する定型的な文章表現を分析し、asmi という動詞によって表現される存在観念について考察した。		35

4 枚中 3 枚目

『「記憶、行為、関係」を現場に生かす』	単著	2008年5月 (平成20年5月)	『緩和ケア』、青海社	フロイト、ユングらの精神分析の実践的洞察を緩和ケアの臨床現場に生かすための新たな視点を提案した。		4
『小空経』における空の実践的構造	単著	2009年2月 (平成21年2月)	『高野山大学論叢』	中部の『小空経』における実践構造を解明し、『気づきの確立に関する教え』におけるヴィパッサナーの実践構造と比較した研究。		16
『対象関係論と死生観』	単著	2009年7月 (平成21年7月)	『臨床精神医学』	対象関係論による自我成立の過程を中心として、「私」という意識の構造から生と死を支える環境について考察した。		6
『子育て支援におけるスピリチュアリティの働き』	単著	2010年3月 (平成22年3月)	『宗教研究第83巻』	NPO法人自然育児女の会が主催する2泊3日の親子合宿における取り組みをスピリチュアリティの視点から検討したもの。		2
『「小空経」における空の実践構造について』	単著	2010年3月 (平成22年3月)	『印度学仏教学研究第58巻第2号』	中部の『小空経』における実践構造をヴィパッサナーの視点から検討したもの。		6
(その他)						

『禅ホスピスの実際と教育訓練プログラム』	共著	2006年8月 (平成18年8月)	『こころケア』、日経研	サンフランシスコ禅センターが開発し運営しているホスピス・ボランティア教育プロジェクトの解説。	村川治彦	9
『おじいちゃんの死：根源的欠損を埋めようとするたましいの行動』	単著	2007年3月 (平成19年3月)	『緩和ケア』、青海社	スピリチュアルケアに関わるようになった理由をふりかえるエッセー		2
『仏教看護の可能性』	単著	2007年7月 (平成19年7月)	『大法輪』、大法輪閣	仏教的視点から看護を考える。藤腹明子氏とのリレー・トーク。		6
『ブッダの言葉、欲と迷いについて』	単著	2007年12月 (平成19年12月)	『大法輪』、大法輪閣	欲と迷いに関する経典の言葉の解説		3
『ブッダの修行と健康法』	単著	2008年8月 (平成20年8月)	『大法輪』、大法輪閣	パーリ経典に見られるブッダの修行と瞑想法について紹介した。		3
『日本仏教と南方仏教の違い』	単著	2008年9月 (平成20年9月)	『大法輪』、大法輪閣	日本仏教と南方仏教の違いについて、三宝帰依、修行の方法論、檀家制度の視点から考察した。		4
『見守りの器』	単著	2008年9月 (平成20年9月)	『緩和ケア』、青海社	ウイニコットの子育てに関する洞察を照会しながら、緩和ケアにおける見守りの器となることの重要性を解説した。		5
『古くて新しい器』	単著	2009年1月 (平成21年1月)	『緩和ケア』、青海社	仏教瞑想が西洋に伝わってマインドフルと呼ばれ、医療や福祉そして心理療法など多くの分野に活かされている。その最先端を緩和ケアの視点から開設した。		5
『息遣いとしてのスピリチュアリティ』	単著	2009年5月 (平成21年5月)	『緩和ケア』、青海社	医療サイドのスピリチュアルペンを取り上げ、関係性の中における共感や需要のあり方を検討した。緩和ケアにおける自己覚知の重要性を解説した。		5
『仏教にこそ期待できるスピリチュアルケアを』	単著	2009年9月 (平成21年9月)	『寺門興隆』	スピリチュアルケアの歴史を概観し、中道の教えを活かしたスピリチュアルケアの可能性を考察した。		2
『スピリチュアルケアとは仏教の実践』	単著	2009年10月 (平成21年10月)	『寺門興隆』	スッタニパータの『幸福経』をもとにケアのあり方について考察した。		2
『看病しにくい者の5条件から学ぶ』	単著	2009年11月 (平成21年11月)	『寺門興隆』	律蔵に出てくる看病しにくい者の5条件についてスピリチュアルケアの視点から考察した。		2
『よき看護者となるための5条件に学ぶ』	単著	2009年12月 (平成21年12月)	『寺門興隆』	律蔵に出てくる看護者としての5条件についてスピリチュアルケアの視点から考察した。		2
『瞑想と作業療法との出会い：触れることが生み出すもの』	共著	2009年12月 (平成21年12月)	『緩和ケア』、青海社	京都大学大学院医学研究科教授の山根寛氏との対談記事。		5

4 枚中 4 枚目

『慈しみの実践』	単著	2010年1月 (平成22年1月)	『寺門興隆』	四無量心の慈についてスピリチュアルケアの基本として考察した。		2
『人に寄り添う心』	単著	2010年2月 (平成22年2月)	『寺門興隆』	四無量心の悲と喜についてスピリチュアルケアの視点から考察した。		2
『瞑想と作業療法との出会い：手放すことと集うこと』	共著	2010年2月 (平成22年2月)	『緩和ケア』、青海社	京都大学大学院医学研究科教授の山根寛氏との対談記事。		5
『ありのままを見る』	単著	2010年3月 (平成22年3月)	『寺門興隆』	四無量心の捨についてスピリチュアルケアの視点から考察した。		2
『親が子に伝える心』	単著	2010年4月 (平成22年4月)	『寺門興隆』	世代間伝達に関してユングの家族布置、ウイニコットの偽りの自己の視点から考察した。		2
『誰もが必要とし、誰もが実践できるスピリチュアルケア』	共著	2010年4月 (平成22年4月)	『緩和ケア』、青海社	高野山大学名誉教授 前スピリチュアルケア学科教授の谷川泰教との対談記事。		5
『非言語コミュニケーション』	単著	2010年5月 (平成22年5月)	『寺門興隆』	身口意の三業について非言語コミュニケーションの視点から考察した。		2
『自分という記憶』	単著	2010年6月 (平成22年6月)	『寺門興隆』	記憶の役割について、仏教の「念」の修行の観点から考察した。		2
『目で、声で、触れる』	単著	2010年 (平成22年)	『寺門興隆』	スピリチュアルケアにおけるふれあいの質について仏教の4つの滋養分の教えの視点から考察した。		2
『身体は自分のものか：悟りの第一条件』	単著	2010年8月 (平成22年8月)	『寺門興隆』	仏教瞑想における悟りの第一条件である有身見の超越についてスピリチュアルケアの視点から考察した。		2
『戒禁取見を超える：悟りの第二条件』	単著	2010年9月 (平成22年9月)	『寺門興隆』	仏教瞑想における悟りの第二条件である戒禁取見の超越について、社会宗教的儀礼の視点から考察した。		2

『悲しむ力と育む力』	共著	2010年9月 (平成22年9月)	『緩和ケア』	特集『死生観を育む』において、悲嘆の仕事の重要性と、思いやりへのつながりに関して現場での体験と精神分析の対象関係論の視点から考察した。	3
『本当の自己信頼とは：悟りの第三条件』	単著	2010年10月 (平成22年10月)	『寺門興隆』	仏教瞑想における悟りの第3条件である疑いの超越について、自己信頼の視点から考察した。	2
『愛してるが言えない』	単著	2010年11月 (平成22年11月)	『寺門興隆』	妻の死に際して伝えたいことがいえなかった事例にどのように寄り添うかについての考察。	2

※著書、学術論文、その他の別で列記してください。枠内の()の位置は分量に応じて変更してください。

学会等および社会における主な活動		井上ウィマラ
2002年4月～2008年 (平成14年4月～平成20年)	日本トランスパーソナル学会 常任理事	
2009年～(平成21年～)	日本トランスパーソナル学会 理事	
2003年～2005年 (平成15年～平成17年)	おもちゃ図書館(山梨県増穂町)における子育て支援のボランティア活動	
2004年～2005年 (平成16年～平成17年)	どんぐりクラブ(山梨県甲府市)における子育て支援のボランティア活動	
2004年～2005年 (平成16年～平成17年)	子育てサポーター養成講座(山梨県増穂町)の講師	
2006年～2008年 (平成18年～平成20年)	NPO法人自然育自友の会の主催する子育て合宿のファシリテーター	
2007年(平成19年)	NPO法人国際セラトニトレーニング協会の主催する健康法合宿の講師	
2007年11月(平成19年11月)	日本認知療法学会でマインドフルネスについて講演	
2008年3月(平成20年3月)	日本代替医療学会で『呼吸瞑想とスピリチュアリティ』について講演	
2008年8月(平成20年8月)	世界乳幼児精神保健学会世界大会で『仏教と乳幼児期』というテーマでワークショップ	
2008年9月(平成20年9月)	仏教看護・ビハーラ学会で『仏教看護におけるメタスキルとしての呼吸瞑想の可能性』について研究発表	
2008年11月(平成20年11月)	日本スピリチュアルケア学会で「子育て支援におけるスピリチュアルケア」について発表	
2009年5月(平成21年5月)	NPO法人自然育児友の会主催ここからミーティングにおいて『子育てはスピリチュアル』について講演、『子育て支援者のためのスピリチュアル・ワーク』をファシリテートした。	
2009年6月(平成21年6月)	日本緩和医療学会で「スピリチュアルケア」のシンポジストとして子育てと仏教瞑想について講演。	
2009年9月(平成21年9月)	印度学仏教学会で『小空経における空の実践構造について』研究発表。	
2009年9月(平成21年9月)	宗教学会で『子育て支援活動におけるスピリチュアリティについて』研究発表。	
2009年11月(平成21年11月)	日本スピリチュアルケア学会で『悲嘆における怒りの反転について』研究発表。	
2009年12月(平成21年12月)	日本仏教心理学会で『四無量心とアンビバレンツ』について講演。	
2010年2月(平成22年2月)	横手市主催DV予防研修会で「気づきと癒し」について講演。	
2010年3月(平成22年3月)	日本財団ホスピタリティ研修会で『ケアとしてのスピリチュアリティ』について講演。	
2010年5月(平成22年5月)	NPO法人自然育児友の会で『子育てはスピリチュアル』ワークショップ。	
2010年7月(平成22年7月)	日本トランスパーソナル学会『スピリチュアルなケアを支えるもの』講演。	
2010年9月(平成22年9月)	印度学仏教学会で『仏教瞑想の現代的意義』についてパネル発表。	
2010年10月(平成22年10月)	青森県看護協会下北支部で『グリーンケア』について講演。	
2010年10月(平成22年10月)	徳島県フリースクールTOECでスピリチュアリティに関するワークショップ、ならびに子育てワークショップを行う。	
2010年10月(平成22年10月)	山梨県看護協会研修会で『周産期におけるスピリチュアルケア』について講演。	
2010年10月(平成22年10月)	大阪府狭山市男女共同参画推進センターで『スピリチュアルケア：命への寄り添い』について講演。	

大学行政への係わり (所属委員会)	
平成18年度(2006年)	学生募集対策委員会 学生部協議会
平成19年度(2007年)	人権研究会 人権問題防止対策委員会 図書館協議会 FD問題 検討会議 学生部協議会
平成20年度(2008年)	総務本部長 人権研究会 学生部協議会 人権問題防止対策委員 会 図書館協議会
平成21年度(2009年)	総務本部長 人権研究会 学生部協議会 自己点検・評価検討委員 会 人権問題防止対策委員会 密教文化研究所協議会 密教文化 研究所兼任研究所員
平成22年度(2010年)	総務本部長 人権研究会 学生部協議会 自己点検・評価検討委員 会 人権問題防止対策委員会 密教文化研究所協議会 密教文化 研究所兼任研究所員

所属	文学部	職名	准教授	氏名	井上松永 (ウィマラ)	大学院の授業担当の有無 (有)
教育活動						
教育上の主な業績		年月日	概 要			
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
『レーズンの祈り映し出されたスピリチュアリティの分析』		2010年6月 (平成22年6月)	授業で作文した文章を質的に解析して、そこに投影された自らのスピリチュアリティについて分析する試み。			
「ミニカウンセリング」		2009年11月 (平成21年11月)	二人一組でセラピスト役とクライアント役のロールプレイを行い、録音テープを会話録に起こし、相互検討する体験学習。			
「ミラーリング」		2008年10月 (平成20年10月)	二人一組で、ひとりが自由に動く役、もう一人が鏡となってその動きを真似るエクササイズを通して、鏡像段階やミラーシステムによって構築される自己イメージと他者理解の相関関係についての理解を深める体験的学習法。			
「呼吸に触れる、呼吸に寄り添う」		2007年5月 (平成19年5月)	二人一組になって、相手の呼吸に触れたり、相手の呼吸をモニタリングすることによって、いのちの実感に触れ、相手に寄り添うための基本を身につけるための体験学習法。			
「マインドフルネス瞑想法」		2006年4月 (平成18年4月)	対人援助の基本となる自己覚知を育むために、現在西洋仏教で幅広く追うよう実践されているマインドフルネス瞑想を大学における援助論の中に実践的に取り入れる試み。			
2. 作成した教科書、 教材、参考書						
『おとなの自然塾』(岩波アクティブ新書)		2003年7月 (平成15年7月)	自然体験活動において呼吸への自覚を応用する実例の紹介。			
『体験の心理学的分析』(社団法人ガールスカウト)		2004年 (平成16年)	ガールスカウトによる幼児の体験活動支援事業に関する分析報告。			
『スピリチュアルケアへのガイド』		2009年4月 (平成21年4月)	キリスト教の窪寺氏とスピリチュアルケアの現場におけるガイドを共著した。			
『看護と生老病死：仏教心理で困難な事例を読み解く』		2010年8月 (平成22年8月)	看護における困難な事例を仏教心理の視点から検討し、解説した。仏教の基本的な教えをいかに臨床現場に応用して行くかについての解説やエクササイズも付されている。			
3. 教育方法・教育実践 に関する発表、講演等						
「野外体験活動とスピリチュアリティ」(清里環境教育フォーラム)		1999年11月	体験学習におけるスピリチュアリティの重要性をワークショップ形式で学ぶ方法を紹介して、評価を受ける。			
「子育てという環境」(清里環境教育フォーラム)		2001年11月	ウィニコットの母親的環境という視点を自然体験学習や環境教育に取り入れるための手段を紹介して、評価を受ける。			

<p>「呼吸を楽しむ」 (慶応大学)</p> <p>「身体知プロジェクト」 (慶応大学)</p> <p>「仏教瞑想の可能性」 (国際セラピー学会)</p> <p>『研究報告「体をひらく、心をひらく」』</p> <p>『子育て支援におけるスピリチュアルケア』</p> <p>『専門職のためのスピリチュアリティ』</p>	<p>2005年11月</p> <p>2006年12月</p> <p>2006年8月</p> <p>2008年3月</p> <p>2008年11月</p> <p>2010年5月</p>	<p>大学教育に体験学習を取り入れる試み。</p> <p>大学教育にワークショップを取り入れる試み</p> <p>セラピーに瞑想的な自覚を応用する試み。</p> <p>大学教育に身体知についての体験学習を取り入れるための実験授業の研究報告。</p> <p>スピリチュアルケア学会で子育て支援活動におけるスピリチュアルケアの可能性について発表。</p> <p>NPO法人自然育児友の会にて講座。</p>
<p>4. その他教育活動上 特記すべき事項</p>		